Image Quotation: 加藤直之 - グインサーガ
http://amazon.co.jp/dp/4150301182

Doc Guin Learn Que

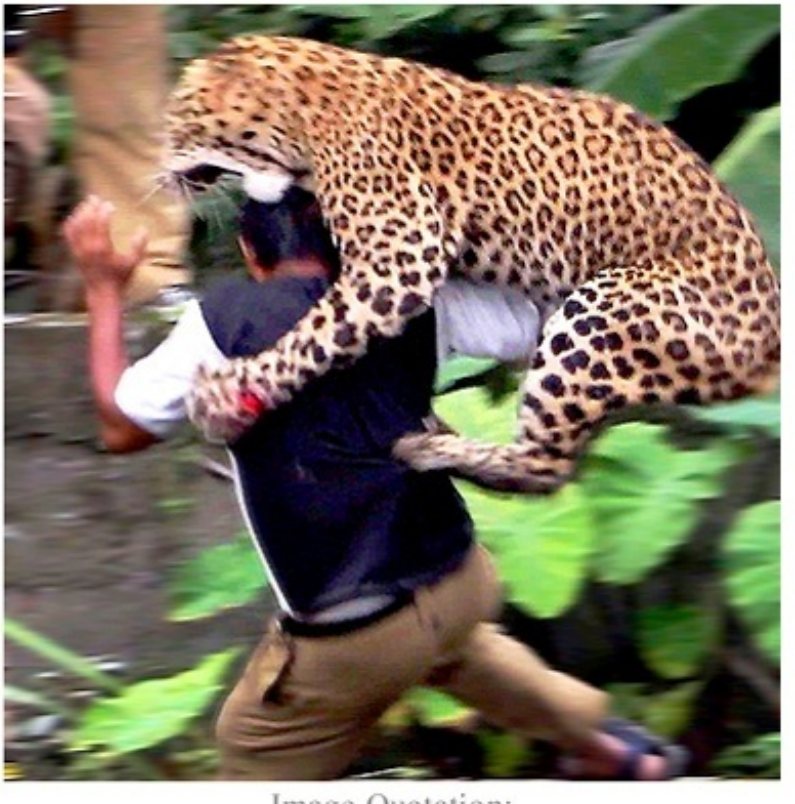

Image Quotation:
http://gawker.com/5957985/a-man-eatting-leopard-is-runnung-wild-in-nepal

【摩衆・楼蘭 独吟半歌仙集】

【摩衆独吟半歌仙・青胡桃】

Image Quotation: Justin Bartlett - The Crystal World
http://www.vberkvlt.com/pages/work_vault/locrian-the-crystal-world-

「イア！ イアク・サカク！」と叫ぶ、客人が……。

【摩衆独吟半歌仙・青胡桃】

01「青胡桃からはじまった結晶化」

02「しぐるる蟬の声は霊歌に」

03「云ひ淀むボーカロイドの煩の熱」

04「やまとたましひ　あがみはらみて」

05「月光を額に飾る父逝きし」

06「位牌に向かひ新走酌む」

07「ツンドラの弾丸列車ゆく記憶」

08「毛皮の下の乳房湯気だち」

09「北窓を塞ぐ番ひの匂ひ満つ」

10「暖炉に焼べる骨付きの肉」

11「イア！イアク・サカク！と叫ぶ客人が」

12「豊穣祭を血潮に染める」

13「月の海ながるるものを見つけたり」

14「ヴィオラの音色つつまれてゆく」

15「現世にゲリラ雷雨のアクセント」

16「レイ・チャールズは虹の彼方に」

17「仙峡の御霊うつりし山桜」

18「はなよりほかに　のこるものなし」

うさぎらは、「月からきた」と主張して……。

Image Quotation: Tim Burton - Alice in Wonderland
http://galleryhip.com/white-rabbit-tim-burton.html

【摩衆独吟半歌仙・秋あかね】

【摩衆独吟半歌仙・秋あかね】

01「しあはせや髪にとまりし秋あかね」

02「サルサの味に泣く生身魂」

03「うさぎらは月からきたと主張して」

04「人参弾を発射！連射だ！」

05「しゅらしゅしゅしゅ金平牛蒡浮かぶ池」

06「こぶたを釣りし古里の川」

07「俳聖は諧謔の先おしえるも」

08「奥にゆくほど濡れる細道」

09「千年も待ちし少女は遠野にて」

10「満開のした絞められるる頸」

11「煌めける花粉のなかに言伝を」

12「陽炎となり逢瀬ふたたび」

13「ジーザスは矢張りトリックスターだと」

14「然り（イ・アー）と驢馬を祀らん」

15「蝦蟇蛙君臨せしむ砂の星」

16「フォースと共に有らん限りを」

17「後醍醐のこゑおぼろなる吉野山」

18「春はばけもの　やうやうと舞ひ」

【楼蘭独吟半歌仙・黒葡萄】

Image Quotation:
http://functionalhermit.wordpress.com/2009/12/07/nfl-week-13-menu-korean-beef-stew-galbi-jim/

刳り貫きし眼窩を浄む黒葡萄

【楼蘭独吟半歌仙・黒葡萄】

01 「刳り貫きし眼窩を浄む黒葡萄」

02 「甘露舐めゆく蛆の白さよ」

03 「 Josephine, 貴腐乾酪のにおひあり」

04 「 Rimbaud's right leg metaphor.」

05 「 [Thich Quang Duc] 師は絶え間無く燃え滾る」

06 「暴力は幻想へと變はる」

07 「紫のけむり玉虫色の吐瀉」

08 「夕を背負ひしガスマスク群」

09 「餓鬼共はオイル撒き散らしてファック」

10 「安保闘争生きる老人」

11 「湿婆神は印度大麻の乳を呑み」

12 「那羅延天の夢に縛せむ」

13 「 La france, Parce que la femme chinoise.」

14 「 Liebe, Die todliche doris.」

15 「大鴉かもめのジョナサンの蜜月」

16 「羊の皮をかなぐり捨てろ」

17 「亡き父の位牌に薄き花片膜」

18 「あした詩人は禍福糾ふ」

【摩衆独吟半歌仙・シベリア鉄道】

棺一基 四顧茫々と霞みけり（大道寺 将司）

Image Quotation:
http://www.rferl.mobi/a/24985382.html

Image Quotation:
http://bio.bwbs.de/Stalin_s_death_B1552.html

Image Quotation:
http://www.nuttyhistory.com/russian-revolution.html

【摩桑独吟半歌仙・シベリア鉄道】

01「初夢を包みシベリア鉄道へ」

02「ナイアガラ瀧ゆく宝船」

03「A面の恋は忘れぬ鳥まじる」

04「四人囃子の響き久しく」

05「DREAMIN.ボルトナットを奪う移民」

06「クールジャパンノアイデンティティー」

07「黄金のメダルを捨てて無我で勝つ」

08「感応性難聴に惹かれる」

09「羨望は細胞よりも割烹着」

10「カジュアル・レイシズムが熱い」

11「よだれ出るほど醜悪な異人愛」

12「ゲロを吐くなら死ぬほうがマシ」

13「Endless Blockade For The Pussyfooter」

14「改めて死の論考を記す」

15「棺一基四顧茫々と霞みけり」

16「世界同時革命の名残」

17「辞世詠む花は何処へ行ったのか」

18「僕の友達はパフひとりだ」

【楼蘭独吟半歌仙・もののふ】

Image Quotation: 三島由紀夫 - 憂國
http://www.fantasium.com/detail.phtml?ID=FOR55401&PHPSESSID=bd3e62a971acc958e817801f7abb737a

もののふの死と転生をあがまひて

【楼蘭独吟半歌仙・もののふ】

01 「もののふの死と転生をあがまひて」

02 「いざなみの膿澄みわたりけり」

03 「はらからに鳴る "Primal Scream" 」

04 「 Momma don't go, Daddy go home.」

05 「 I laughed when Lennon got shot.」

06 「 4 Real carved without sense.」

07 「昨日まで、あまり悩んでいなかった。」

08 「でも今日は悩んでいる。何故だ？」

09 「小枝折るように白鳥刎頸す」

10 「味噌スープには野生の思考」

11 「 Tutte le strade portano a Roma antica.」

12 「 Per una pugna di suspiria.」

13 「血の帽子被り博士は豹変す」

14 「心の面皰が箍を外す」

15 「クロマニヨン？若しくはネアンデルタール？」

16 「デウス・エクス・マキナが生まれる」

17 「リア充を爆発せしむ花は散る」

18 「非モテ非人よ暖を死守せよ」

罵角の覚え書き

摩衆氏興行「青胡桃の巻」満尾に際して　2013-09-02 14:38

Twitterを中心に懇意にしていただいている摩衆氏が、半歌仙の独吟興行「青胡桃の巻」を先日めでたく終えられました。

氏の前回の独吟興行を抽出して、自身の小説に転化するという手法の前代未聞さにも驚かされたのですが、今回の「青胡桃の巻」も私の平凡な予想を見事に裏切っていただきました。

まず、有季定型で連句全体が貫かれている点です。当然、無季破調でくるものと思い込んでいたのですが、定座もしっかり守られていました。しかし、摩衆氏の俳諧は定型のなかで飼い慣らされることなく、既にある単語をリミックスして新しいものに変えていく、独特の言語センスは今回も見て取れます。それは一句中だけでなく、〈付け〉のなかにも活きています。

私は摩衆氏の独吟のなかに〈パレード〉への発展性を発見しました。一見無秩序でありながら、全体がメロディーという目に見えない統率で動いている、それが〈パレード〉というものです。メロディーは無粋な拘束はしません、それぞれが思うままに自由に統率される関係を保ちます。ピエロもいれば、着ぐるみの姿もあり、酔っ払いも、子ども達も気ままに参加できる〈パレード〉は愉快なものです。

独吟連句ならではの弱点というのは当然ながら存在しています。「青胡桃の巻」においても、摩衆氏ご本人が指摘される〈さわり・付きすぎ〉といった課題が潜在しています。これを良い・悪いの善悪判断でなく、どのように捉え今後の文芸に活かすのか、という視座をもつことが出来るか否かが重要だと考えたいです。これは言うまでもなく、私自身に与えられた課題でもあります。

摩衆氏の「青胡桃の巻」満尾に際して、今後の独吟活動の手がかりとすべく、ここに書き残しました。

諷亭罵角 2013/9/2

http://d.hatena.ne.jp/bakaku/touch/20130902/1378100335

懇親の力を籠めて〈パレード〉を「想像」する（摩衆・独吟半歌仙 自解）

罵角さんから頂いた〈パレード〉の指摘、興味深く捉えました。パレードは今ではディズニーランドのような場所でしか見れません。「ちんどん屋」「魑魅魍魎の百鬼夜行」「ハーメルンの笛吹き男に着いていく子供たち」は、最早、文学的な想像力が必要になります。

かえって今の時代は、デモ行進やオキュパイ運動のほうがリアルに見かけます。僕も首相官邸前の反原発デモに参加しました。初めて参加した時は、次々と増殖する仲間の姿を見て、ロックフェスティバルに遊びに来ている錯覚を覚えました。……時が経つにつれて官邸前デモはおとなしくなり、 官邸周辺に参加者が散らばり小規模な演説を行うだけに留まります。閑散として淋しかったです。

群衆心理がイニシアチブを握ると、個人の感覚は鈍くなります。ロックフェスティバルに参加すると、周りが騒いでいるから自分も騒がなきゃいけない気がしてきます。鼓動は高鳴り、アドレナリンが大量放出されて興奮してきます。大きな渦に呑まれることは、事前にそれが危険だとわかっていても、いざ巻き込まれたらパニックに陥ります。物凄い感情の昂りが自分自身に襲いかかります。これらの感覚を否定的に捉えるか、もしくは肯定的な意味合いを引き出すかによって、罵角さんが指摘する〈パレード〉の魅力は変わってくるでしょう。

拙独吟半歌仙「青胡桃」では、連句で物語を表現することを試みました 。連句（連衆連句）は「座の文芸」と言われていて、参加者（連衆）それぞれの解釈で句を「付け」ていきます。「付け」とは、前句の内容からシンプルに「連想」して前句の「続き」を語ること……ではありません。繋がらない内容と思われても、それを付けることで前句から「意外な展開を導き出す」ところに「付け」の醍醐味があります。

連句で物語を語ることは、「付け」に小説の地の文のような情景描写を織りむことになります。それは下手をすれば前句の続きを語ることになり、連句のセオリーから逸脱します。前句内容に囚われず、且つ、前句に意外な言葉を付けることで物語の一端が垣間見えるようにするには、「言葉と言葉が繋がった後の世界」を、懇親の力を籠めて「想像」するしかない。それが、「青胡桃」以降に課せられた拙独吟連句の課題、だと思っています。

摩衆（M☆A☆S☆H（大田正之））2014/5/24

死の友情（楼蘭・独吟半歌仙 自解）

私と摩衆氏との出逢いは、東日本大震災直後のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）でのことだ。未曾有の大災害は、羅生門の飢饉の描写の如く、屍体をリアルに溢れかえさせた。私は屍体を悍ましいものと捉えず、真摯に死と向き合った。摩衆氏は私の姿勢を評価してくれた。其れが友情の始まりだ。

私は摩衆氏と共に二吟の連衆連句を嗜んだ。実質は式目という連衆連句のルールを逸脱した問答法の如き自由詩であり、知的刺激を得た。次に摩衆氏は、此の二吟自由詩を発展させて、私を主人公にした小説を執筆する。其処での私は摩衆氏の父親役を与えられて、孤独死に憧憬する演技を演じている。摩衆氏の死の捉え方はユニークだ。

今回は二吟自由詩でなく、一人で十八句を詠み続ける独吟半歌仙に挑戦した。一人で連句を詠むのは初めての試みだが、俳句を角川春樹氏が提唱する魂の一行詩と捉えて詠むように、独吟半歌仙も自由連詩と捉えて自由に詠唱した。十七音節と十四音節の韻文を反復させるという独自の縛りを設けたが、其れ以外は式目に囚われず、英語、仏語、独語、伊語の詩編を織り混ぜて、多国籍言語のビビンバ状態を狙った。此の手法を熟していけば、却って和語漢語の精度が向上するだろうと直感している。

中沢新一氏は、旧人類（ネアンデルタール）と現世人類（クロマニヨン）の差異を、比喩表現能力の向上と説く。「食べたいくらいに可愛い」は、文字通りのリアルなカニバリズムを実行する意味……ではない。然し、此の比喩を文字通りでしか捉えられないネアンデルタール人の擦れ加減を愉しむことが、更に、此の比喩を理解出来るクロマニヨン人が敢えてユーモア感覚でカニバリズムを実行することが、リアルな詩情に繋がると私は捉えている。私が目指すのは、其処だ。

楼蘭（KingdomSilkroad）2014/5/31